

【平成23年10月 地域警察官特別派遣部隊 男性警察官（21歳）】

被災地派遣を終えて

私は9月2日から9月9日までの間、地域警察官特別派遣部隊として岩手県大船渡警察署で勤務してきました。その勤務を通じて感じたことについてお話ししたいと思います。

派遣初日、大船渡市街地に入ると、すぐにスーパーやコンビニ等の建物があり、「震災からもう半年経っていたので大分、復興したんだな。」と感じていました。



しかし、次の日から大船渡署員とともに管内の調査を行ったところ、海沿いの地区では建物のほとんどがなくなり、だだっ広い平地となって、被災前にあったであろう店の看板が無惨な姿のまま、その場に瓦礫と一緒に置かれていました。カーナビで見ると建物が密集しているはずの場所が、建物が一切なく、代わりに瓦礫や、スクラップとなった車両が山積みになっていました。

特に被害が甚大だったのは、陸前高田市で、海沿いで唯一残っていた5階建てのアパートには、津波が来た痕なのか、4階までのガラスが全て割れ、とても人が住める状態ではなく、また、道路には瓦礫がいたるところに散乱しているため、通行止めになっていたり、場所によっては冠水しているところもありました。

この光景を見て、初日に感じたことは間違いで、改めて、今回の地震による津波の被害が甚大であることを痛感させられました。

派遣期間中の勤務の中で特に感じたことは、現地警察官の力強さです。

今回の地震による津波で大船渡警察署管内の交番、駐在所がいくつも流され、殉職者も4名に及んだほか、他にも家族や親戚が未だ行方不明となっていたり、家を流され、財産を全て失ってしまった警察官も少なくありませんでした。このような警察官自体が「被災者」となっているにも関わらず、被災した地域住民のため、粉骨砕身の思いで勤務している姿を間近で見て、目頭が熱くなりました。そして警察の原点である「国家と国民に奉仕する」ため、自分も一生懸命頑張らなければと決意を新たにしました。

今回の派遣では、他県警の警察官と意見交換をしたり、地域住民とのふれあいなどを通して、とても良い経験となりました。

この経験をこれからの勤務に活かし、安全安心まちづくりに少しでも貢献できるよう精一杯取り組んでいきたいと思っています。